

## たくさんの暖かい声援ありがとうございました

10月1日の運動会には、早朝より多くみなさまにおいでいただき、児童の競技や演技にたくさんの暖かい声援をお寄せいただき、ありがとうございました。子どもたちは、この日に合わせて何度も練習を重ねてきました。特に、6年生は小学校最後の運動会ということで、係の活動にも一生懸命取り組んでくれました。各学年とも、ダンスもリレーも綱引きもチームのメンバーのがんばりを信じて、自分の持てる力を精一杯発揮し、活気のある運動会にしてくれていたように思います。皆さんよく頑張りました。

### ～友達の思いに気づける人になろう～

さて、運動会が終わるとともに吹く風に冬の気配を感じるようになりました。体調管理が難しい今日この頃ですが、子ども達は元気よく友達と遊んだり、勉強したり、毎日の学校生活を楽しんでます。とても嬉しいことです。

また、校庭の木々や山並みも色づき始めました。日本の四季（春夏秋冬）の素晴らしさを改めて感じることでできる紅葉の季節がやってきました。10月の生活目標は、「思いやりのある行動をしよう」として、声かけを続けてきましたが、先日、「秋深き隣は何をする人ぞ」という芭蕉の俳句がふっと頭に浮かびました。この句は、芭蕉が病気の為に俳句会に欠席することになった時、発句（最初に出す俳句）として創作したといわれています。『秋が深くなり、病気で床に伏せて静かにしていると、自然と隣の人々の生活の音が聞こえ、隣の人は何をしている人だろうなどと想像してしまう』というような意味です。江戸時代と現在では住宅構造の違いや様々な騒音があるので隣の人々の生活の音が聞こえないかもしれません。しかも現在では、隣の人々のことなど全く気にかけない人、むしろ隣の人と関わろうとしない人もいるという寂しい現実があります。他人のプライバシーを侵害することは許されませんが、同じ地域に住む隣人として、同じ学校で学ぶ仲間として、隣にいる人の思いや生活を気にかけることは大切なことです。思いやりや助け合いの心が培われる源です。時には、何気ない言動が友達を傷つけたり悲しませたりしているかもしれません。友達の思いに気づける人になりましょう。秋の深まりとともにクラスの仲間との繋がりを深め、誰にとっても居心地のいい学校になるよう笑顔いっぱい元気いっぱいで楽しい学校生活を送ってほしいと思います。

校長 土井 安博